

持続可能な森を目指して

伐採前の状態



平成16年の台風被害



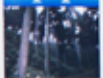
倒木の除去作業



平成20年時点の状態



完成



私たちは今、「持続可能な生活を可能とする自然との共生」が求められています。

現在、外材と国内材の価格差は大きく、国内の森林を伐採し搬出しても、再植林の費用すら残らないと言われていました。この状況で放置された人工林は、木々が密集しお互いの成長を妨げる「暗い森」になってしまいました。「暗い森」は、もはやCO₂の吸収源ではなく、「光合成で吸収するCO₂量より、呼吸で排出するCO₂量の方が多い」放出超過体になります。

最近の学説では、日本の森は計画的に手入れして切らなければ、逆に、木の能力が充分に発揮出来ないといわれています。つまり、昔の人が行ってきた伐採→植栽→下草刈り→枝打ち→間伐→成林→伐採(徹底的な利用)→植林というサイクルは実に理にかなっていたのです。この場所ではその森林サイクルの復活を目指しています。

